

第5回「池袋の路面電車とまちづくり」シンポジウムのご報告

- 東京の都市再生から見た池袋LRT - (豊島区文化創造都市宣言記念事業)

池袋の路面電車とまちづくりの会

平成17年10月22日、NPO法人交通ビジネス研究会の協力、豊島区及び財団法人としま未来文化財団の後援を受け、東京の都市再生の視点から、池袋LRT実現に資すべくシンポジウムを開催した。地元関係者を中心に約100名の参加を得、池袋LRT実現に向けてさらなる地歩を進めることができた。

1. 池袋LRT構想の現状と課題

池袋LRT構想の現状と課題について、豊島区都市整備部の鈴木都市計画課長から報告を受けた。

- 1) 平成15年度に、池袋副都心再生プランの一環としてグリーン大通りLRT導入計画を盛込んだ
- 2) 導入目的は、池袋のイメージアップ・池袋駅東地区のアクセス改善・高齢者等の移動支援
- 3) 導入ルート案は東池袋・雑司ヶ谷・サンシャインの3つとし、都電との直通化は将来の課題とした
- 4) 3ルート案それぞれの建設費は48億円前後、需要予測は約3000~5000人
- 5) 収支試算では2.8~3.8億円/年の赤字で、継続的な財政支援を要す
- 6) それ以外の課題は、自動車交通への影響・車両基地確保・運営体制・需要の確保と精査・合意形成

2. 『池袋LRTの早期実現に関する要望書』の提出及びバーチャル・リアリティによる合意形成支援について

『池袋LRTの早期実現に関する要望書』の提出について、当会の阿部が説明した。

- 1) 第1期ルートとしては、雑司ヶ谷ルートを検討を深度化することが喫緊の課題
- 2) 需要予測の見直し等により採算性を確保でき、民間企業の運営による早期実現の可能性が充分あり
- 3) 会長から区長へ8月16日に、LRT走行空間の確保・早期の運行開始・高い利便性・運営コストの低廉化・民間企業主体の事業運営の5点を踏まえて関係機関と協議することの要望書を提出

バーチャル・リアリティによる合意形成支援について、当会の阿部が説明した。

- 1) PC上で現在の風景に将来の新規構造物や車両を重ね合わせでき、関係者への説明や合意形成に有効
- 2) 一昔前には数千万円だったのが、2~3百万円で高品質の動画を作成可能

3. LRT導入の支援制度について

LRT導入の支援制度について、国交省街路課の藤崎特定都市交通施設整備室長からご講演を受けた。

- 1) 道路・市街地・鉄道整備3分野の補助事業の同時採択等により、LRT導入を一体的・総合的に支援
- 2) 路面電車走行空間改築事業・都市再生交通拠点整備事業・LRTシステム整備費補助の3つが連携
- 3) 地域はLRTプロジェクト推進協議会を設置してLRT整備計画を作成
- 4) 国の補助等を活用するには、前年の春に事業に係る基本的な方針が決まっていることが望ましい
- 5) 全国70事例の多くは、自動車利用抑制・自治体財政負担・バス会社等との調整が課題で具体化せず
- 6) 国交省は計画立案手引書である「まちづくりと一体となったLRT導入計画ガイドンス」を発表した
- 7) 「まちづくり交付金」は、地方の自主性・裁量性が高く手続きも簡素で、活用する価値は高い

4. 対談「東京の都市再生から見た池袋LRT」

東京の都市再生から見た池袋LRTをテーマに、高野豊島区長と野口秀行事務所代表の野口氏が対談した。

- 1) サンシャインを建設する際に新交通システム導入を検討したが、首都高を越えられず断念した
- 2) “文化”や“環境”をキーワードに池袋再生を進めるのに、LRTはそのキーとなる
- 3) 鉄道事業を採算性の観点から見る必要はなく、欧米では行政による財政支援を前提としている
- 4) 学生は終日利用してくれるありがたい顧客層で、成功した鉄道事業者は沿線に大学を誘致している
- 5) バーチャル・リアリティのデモは素晴らしい出来栄
- 6) 「まちづくり交付金」は確かに使い勝手が良く、池袋でも活用を検討すべき
- 7) LRT導入に当っては、民間活力の活用を考えるべき
- 8) 資金調達するのに、マンション管理費を区が銀行より高金利で預かり投資財源とするのも一法